

149. Lévy の条件

(北大) あつち・まさひと (1949.2.18)

P. Lévy の与えた「個々には無限し得る」という概念は、独立な実確率変数の和の理論に於て重要な役割を演じていることは周知である。

この概念を逆の立場から考察してみる。

[定義] 独立な(実)確率変数の無限行列 (X_{ij}) ($i=1, 2, \dots, j=1, 2, \dots, n_i$) に於て ($1 \leq n_i \leq \infty$)、次の条件(A)が満足される時、和 $S_i = X_{i,1} + X_{i,2} + \dots + X_{i,n_i}$ の確率 f ($0 < f < 1$) に対する振幅度 $L_i(f)$ に対して、各 $X_{i,j}$ ($j=1, 2, \dots, n_i$) は $i \rightarrow \infty$ の時 個々には無限し得る という。

任意の $\varepsilon > 0$ に対して

$$(A) \quad \lim_{i \rightarrow \infty} \max_{1 \leq j \leq k_i} P\{|X_{i,j}| > \varepsilon L_i(\rho)\} = 0$$

以下に於ては $X_{i,j}$ の median e は 0 としておく。

[定理 1] 次の二つの条件 (A'), (B') は同値である。

$$(A') \quad \lim_{i \rightarrow \infty} \max_{1 \leq j \leq k_i} P\{|X_{i,j}| > \varepsilon\} = 0, \quad \varepsilon > 0$$

$$(B') \quad \lim_{i \rightarrow \infty} \max_{1 \leq j \leq k_i} L_{i,j}(\gamma) = 0, \quad 0 \leq \gamma < 1.$$

但し $L_{i,j}(\gamma)$ は $X_{i,j}$ の、確率 γ に対する收縮度である。

[証明] 先ず (A') を仮定する。

$$\eta_i(\varepsilon) = \max_j P\{|X_{i,j}| > \varepsilon\}$$

とおけば

$$\lim_{i \rightarrow \infty} \varepsilon_i = 0, \quad \lim_{i \rightarrow \infty} \eta_i(\varepsilon_i) = 0$$

となる様な正数列 $\{\varepsilon_i\}$ が存在する。

$$0 \leq \gamma \leq 1 - \eta_i(\varepsilon_i) \quad \text{なら}$$

$$L_{i,j}(\gamma) \leq 2\varepsilon_i \quad (j=1, 2, \dots, k_i)$$

$$\max_j L_{i,j}(\gamma) \leq 2\varepsilon_i.$$

即ち (B') がある。

逆に (B') を仮定する。

任意の $\varepsilon > 0$ に対して

$$\varepsilon > \max_j L_{i,j}(\delta) \geq L_{i,j}(\gamma), \quad (j=1, 2, \dots, k_i, i > N)$$

今 任意に ε' が与えられたとする。 ($\varepsilon' > 0$)。

$\frac{\varepsilon}{2} > \varepsilon'$ の時は、 $\gamma = 1 - \varepsilon'$ とおけば

$$\begin{aligned} P\{|X_{i,j}| > \varepsilon\} &\leq P\{|X_{i,j}| > L_{i,j}(\gamma)\} \\ &= 1 - P\{|X_{i,j}| \leq L_{i,j}(\gamma)\} \end{aligned}$$

$X_{i,j}$ の median は 0 元から $L_{i,j}(\gamma)$ の実直線上の位置
は 0 を含む。 従て

$$P\{|X_{i,j}| \leq L_{i,j}(\gamma)\} \geq \gamma.$$



$$P\{|X_{i,j}| > \varepsilon\} \leq 1 - \gamma = \varepsilon \quad (j = 1, 2, \dots, k_i, i > N)$$

$$(1) \quad \max P\{|X_{i,j}| > \varepsilon\} \leq \varepsilon', \quad i > N.$$

$\varepsilon' \geq \frac{1}{2}$ の時は 任意に $\varepsilon'' < \frac{1}{2}$ をとり, 上述の ε' の代わりに使えば (1) は ε' の代わりに ε'' で置き換えられる. 従って向 $\varepsilon' \geq \frac{1}{2}$ では (1) は成立する. ε' は任意だったから (A') である.

[定理 2] $X_{i,j}$ の收幅度を $L_{i,j}(\gamma)$ とすれば, 条件 (A) と次の条件 (B) とは同等である. 但し $L_i(p) \neq 0$ とする.

$$(B) \quad \lim_{i \rightarrow \infty} \frac{1}{L_i(p)} \max_{1 \leq j \leq k_i} L_{i,j}(\gamma) = 0, \quad 0 \leq \gamma < 1$$

[証明]

$$Y_{i,j} = \frac{X_{i,j}}{L_i(p)}$$

とおけば (A) は [定理 1] の (A') の型となる.

又 その時,

$$L_{i,j}(\gamma) = L_i(p) \ell_{i,j}(\gamma)$$

但し $\ell_{i,j}(\gamma)$ は $Y_{i,j}$ の收幅度

であるから (B') は (B) となる.